

70周年を記念し(株)小林青果市場が寄付

12月23日、株式会社小林青果市場（植木毅代表取締役）が市に寄付を行いました。同社の創立70周年を記念して寄付をいただいたもので、植木代表は「市民の皆さんのおかげで70周年を迎えることができた。寄付を有効に活用してほしい」と話していました。



吉丸会長は「本協定により早い段階での地域ニーズのすくい上げなど、救援・復興活動の充実が図られ、1日も早い復興が期待されます」と話しました

男女そろって創部後初の九州大会出場

1月14日、小林高校の男女ハンドボール部が2月開催の全国高校ハンドボール大会九州地区予選出場を市長に報告しました。12月の県予選で男女とも初の準優勝を果たし、創部初の九州大会アベック出場。なお、県予選男子の優勝は小林秀峰高校でした。



災害時の救援活動充実に期待 ボランティアセンターの協力協定

12月23日、小林市社会福祉協議会（吉丸政治会長）と小林市災害ボランティアコーディネーターセンター（倉田富夫理事長）が、災害時のボランティアセンター開設・運営の協力協定を締結。大規模災害時に被災者への円滑な救助活動などが目的で、コーディネーターが専門的観点からボランティアと被災地のニーズを取りまとめます。

おいしい宮崎牛でがんばる学生を応援！

宮崎牛のおいしさで、小林の学生を元気に。昨年9月から12月にかけて、コロナ禍でさまざまな影響を受けている学生に、宮崎牛を食べて元気を出してもらい、宮崎牛に対する理解も深めてもらおうと、小林看護医療専門学校の学生と市内3つの高校の生徒に宮崎牛を振る舞いました。

「プロジェクト」の一環として実施したもので、学生たちは宮崎牛をふんだんに使った弁当や、サイコロステーキ、牛汁などで宮崎牛を味わいました。

小林秀峰高校3年の中窪翔さんは「脂が乗っていておいしかったです。実家で和牛を生産しているので、自分も将来おいしい宮崎牛を生産して、みんなに食べてもらいたい」と話していました。



マイナンバーカード出張窓口で市職員が高校生の申請をサポート

12月22日から12月25日までの4日間、市民課職員が小林秀峰高校で高校生のマイナンバーカード申請のサポートを行いました。授業や部活動で市役所になかなか足を運べない高校生が申請しやすくするための県内初の取り組みで、希望する生徒約100人が申請。市内在住の生徒には、後日職員が学校を訪問し、交付手続きを行います。



申請した2年生の吉野玖瑠美さんは、「将来便利になると思うので、早めにつくりたいと思い申請しました。できあがりを楽しみ」と話していました

凍える寒さも吹き飛ばす寒稽古

1月2日、霧島岑神社で少林寺流錬心館空手金鳥井支部（外園孝二代表）の寒稽古が行われました。新型コロナウイルス感染症の早期終息祈願と、心身の鍛錬を目的に初めて実施。5歳から63歳の門下生20人が、寒空のもと稽古に汗を流しました。



人権擁護委員2人が委嘱されました

人権擁護委員として、松江良徳さん（写真㊦）、楠元充子さん（写真㊧）が法務大臣から委嘱されました。任期は令和5年12月31日までです。毎月「人権・行政・なやみごと相談」を開催していますので、気軽に相談ください。（今月の相談日は11日をご覧ください）



マツタロウ大使（写真㊦）は「パラオ資料館を訪れることができ、ずっとお会いしたかった久保さんにもお会いできた。感謝します」と話していました

小林とパラオのかけはしへ 駐日パラオ大使がパラオ資料館訪問

12月17日、駐日パラオ共和国大使館のフランス・M・マツタロウ特命全権大使が、環野地区のパラオ資料館を訪問しました。同館は、戦後パラオから環野地区に入植した久保松雄さん（環野在住）が、パラオの美しさや戦争の悲惨さを伝えるために開いたもの。大使が久保さんへの面会を希望したことが縁となり、訪問が実現しました。

体育・文化振興のため、市内3校へ寄付

12月14日、小林市区長会（橋ノ口孝一会長）が、体育・文化振興のために市内3高校（小林高校、小林秀峰高校、小林西高校）へ寄付を行いました。橋ノ口会長は「コロナ禍の大変な時代ですが、体育・文化活動の発展に役立ててほしい」と話していました。



活動から福祉への関心を高める

12月25日、体験を通して思いやりの心を育むことなどを目的としたボランティア体験（主催：社会福祉協議会）が行われました。小・中・高校生21人が参加。市内各所での街頭募金活動を行った後、高齢者に宛てた年賀状作成などを行いました。

